

第2章 教育研究組織

(教育研究組織)

A群 当該大学の学部・学科・大学院研究科・研究所などの組織の教育研究組織としての適切性、妥当性

1996年(平成8年)に人間学部文化人類学科、臨床心理学科の1学部2学科でスタートした本学は、大学院設立の具体化をめざし、1999年(平成11年)6月30日付にて文部大臣あて大学院研究科修士課程の設置認可申請を行い、2000年(平成12年)4月に文化人類学研究科文化人類学専攻修士課程、臨床心理学研究科臨床心理学専攻博士前期課程開設をみた。その後大学院臨床心理学研究科に博士後期課程を開設し、2004年(平成16年)4月には学部現代社会学科を設置した。これにより、本学の教育研究組織は、大学は人間学部1学部に文化人類学科・臨床心理学科・現代社会学科の3学科、大学院は2研究科2専攻となった。

人間学部として、臨床心理学で人間個人の内面を、文化人類学で人間相互間の関係性・文化を、現代社会学で法学、経済学、社会学等を通して社会の中の間を総合的に研究するというアプローチは、わが国では斬新であると同時に方法としても妥当なものであると思われる。学校法人京都文教学園としては幼稚園から大学院までの一貫教育が可能となり、創立以来100年の念願である総合学園として完成する道を一步踏み出すことができたと考えている。

また付置研究機関としては、1996年(平成8年)の大学開学と同時に人間学研究所が、1997年(平成9年)に心理臨床センターが設置された。人間学研究所は、規程第2条に、「人間学の総合的な学術研究を行うことを通じて、文化の発展に寄与することを目的とする」と謳っており、文化人類学科と臨床心理学科の2学科からなるユニークな大学として開設された経緯をふまえ、当初は上記のような特色を生かした学際的共同研究を推進することを目的とした。さらに現代社会学科スタッフが加わったことで、実体社会・実体経済・政治外交面もカバーする共同研究が可能となった。現在、3学科のスタッフを中心とし学外の関連分野研究者も参加した共同研究プロジェクトを、3年を1クールとして組織し、その成果を公開研究会・講演会、書籍や紀要の刊行などの形で各界に発信している。また、心理臨床センターは規程2条に、「心理臨床の実際にかかわる研究を深め、その成果を京都文教大学の教育に還元するとともに、社会一般の相談援助に資することを目的とする」とあるように、アカデミックな研究のみならず、一般相談者へのカウンセリングなどの実践的な活動を行っている。また、臨床心理学研究科の大学院生の臨床研究・実践の場ともなっている。

上述の大学附置機関の他に、図書館・健康管理センター・学生相談室が設置されている。学生相談室は臨床心理学科、研究科を擁する本学の利点を生かし、特に優秀な人材を確保した水準の高いものと自負している。

これら、本学の建学理念である仏教精神に基づき設置された人間学部に、文化・心・社会をキーワードとする3学科、2研究科および文化人類学・臨床心理学・現代社会諸科学の学際的共同研究推進のための人間学研究所、心理臨床の研究を深めると共に、その結果を教育ならびに社会に還元するための心理臨床センターが相互にその機関を補完しあっており、人間学部における人材養成の目的にもバランスがとれており適切なものと評価できる。

また、更にこれら学問の深化を図るため、文化人類学研究科ならびに臨床心理学研究科の設置は必要不可欠なものである。今年度開設した現代社会学科についても引き続き研究科の設置について検討を進めている。